

令和5年度 千葉県学力向上推進会議

ちばっ子「学力向上」総合プラン
(ダブル・アクション+ONE)

評価表

千葉県教育庁教育振興部学習指導課

Action1 目指す姿

「自ら課題を持ち、多様な人々と協働し、粘り強くやり抜く子」

【評価項目】 児童生徒の「学ぶ意欲の向上」

【評価の観点】 ア 人的配置により学ぶ意欲の向上につながっているか

イ 教育環境の整備により学ぶ意欲の向上につながっているか

事業担当者による自己評価

ア 人的配置により学ぶ意欲の向上につながっているか

		2-1	3-1	3-2	4-2	視点1の 評価
		遣事業の充実 「千葉県学習サポーター」派	「特別非常勤講師」の配置	配置 「小学校専科非常勤講師」の	の外国語指導助手（ALT）等	
児童生徒	児童生徒は、自らの課題を明らかにして学習活動に取り組めたか	a	a	b		a
	児童生徒は、多様な価値観にふれたり、普段体験できない活動が行えたりしていたか		a	b	b	b
	児童生徒は、活動の意味を理解し、最後までやろうとする意欲を持てたか				b	b
	児童生徒は、主体的または計画的に学習に取り組めたか	a				a
	魅力的な学習活動であり、児童生徒が最後までやろうとする意欲を持てたか	a	a	b		a
県教委	児童生徒が学ぶことが楽しいと思える教育活動を支援できたか			b		b
	児童生徒が学ぼうと意欲的になるための教育活動を支援できたか	a				a

※a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である

イ 教育環境の整備により学ぶ意欲の向上につながっているか

		1-1	1-2	1-3	4-1	5-1	5-2	5-3	6-1	視点ごとの評価
		ちばっ子チャレンジ100 (小学校)	ちばのやる気学習ガイド (中学校)	進「家庭学習のすすめ」サイトの活用促進	ICT (学習支援ソフト) の活用	「SSH」の活用	「科学の甲子園」大会の開催	「科学の甲子園」大会の開催	進学指導重点校 (高校) における教育活動の充実と普及	
児童生徒	児童生徒は、自らの課題を明らかにして学習活動に取り組めたか	b	b	a	c			a	c	b
	児童生徒は、多様な価値観にふれたり、普段体験できない活動が行えたりしていたか				c	a	a		c	b
	児童生徒は、協力したり協働したりしながら学習する良さを実感できていたか					a	a		c	b
	児童生徒は、見通しを持って活動に取り組む、最後までやろうとする意欲を持てたか	b	b	a				a		b
	児童生徒は、主体的または計画的に学習に取り組めたか	b	b	a	c					b
県教委	児童生徒が自発的、計画的に学習に取り組むための支援ができたか	b	b	a						b
	児童生徒が学ぼうと意欲的になるための教育活動を支援できたか			a		a	a			a
	児童生徒が将来の夢や希望が持てる教育活動であったか							a		a

※a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である

学力向上推進会議による第三者評価

*学識経験者、学校教育関係者、保護者代表等による評価

評価の観点	学力向上推進会議における意見
ア	<p>『千葉県学習サポーター』派遣事業は、一人一人に応じたきめ細やかな支援を行っており、学力向上につながっている。また、児童生徒に寄り添うメンターの役割を果たしている点でも、その存在は大きい。今後は、派遣人数や勤務時間を増やすなど、事業を更に拡大すること、学習サポーター及び配置校に本事業の目的を一層周知し、より大きな効果をあげる活用を望む。</p> <p>『小学校専科非常勤講師』の配置事業では、図画工作の授業を参観した際、児童の質問に丁寧に答えている姿や技能面を的確に指導する姿が見られ、児童の意欲向上と達成感につながっていた。児童生徒の思いを大切にできる事業である。魅力ある専門分野の人材の確保が課題であるが、人材バンクを活用するなどして、一層の事業充実を望む。また、兼業等に配慮した柔軟な勤務形態を工夫するのも一案である。</p> <p>人的配置により学ぶ意欲の向上を図る事業について、「特別非常勤講師」や「外国語指導助手（ALT）」など、児童生徒に多くの大人が関わることの効果を追求してほしい。</p>
イ	<p>「ちばっ子チャレンジ100」「ちばのやる気学習ガイド」は事業開始から10年以上が経過し、定着してきている。MEXCBTの周知及び活用、また、小中学校の学びの継続など、本事業の一層の充実を期待する。</p> <p>実際に「SSH」指定校を見学し、課題設定や探究の過程を1から構想することに全力を注いでいる様子を見ることができた。県内の指定校において安定的に活用され、学校間の連携が深まっているため、事業の価値が高まっている。今後は、教職員へ先進的な理数教育の内容や実践事例を広めていくとともに、中学生向けの研究発表を行うなど、本事業が他の学校種や県民に広く周知されることを望む。</p> <p>「ICTを活用した学習指導の充実」については、ホームページ等で様々なよいコンテンツを公開しているが浸透していない実情があるため、方法を工夫して周知に努めるべきである。また、ICT活用状況の把握、ネットワーク環境の整備、研修等とおした教職員の資質能力の向上が求められる。</p>
<p>【Action 1 について】</p> <p>限られた予算内で児童生徒の学ぶ意欲を引き出すため、工夫した取組がなされているが、周知方法や活用率向上に課題がある。これまで作成した優秀なコンテンツの活用促進に努めてほしい。</p> <p>「学習サポーター」などの人的配置に関しては、学力の改善が望まれる学校に優先的に配置し、効果検証に努めてほしい。また、ALTの配置など、英語教育の充実については、社会で問われる英語力が一段と高度化していることを踏まえ、児童生徒の将来を見据えた予算確保を望む。</p> <p>各委員による事業視察などを踏まえた検証がなされており、評価に納得できる。県内全ての公立学校の更なる学力向上に向け、事業を継続することを望む。</p>	

Action2 目指す姿

「子供と社会の変化を捉え、自律的に学ぶ姿勢をもち、授業を工夫する教員」

【評価項目】 教員の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

【評価の観点】 ウ 「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を意識した取組につながっているか

エ 授業改善を意識した研究・研修・分析ができているか

事業担当者による自己評価

ウ 「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を意識した取組につながっているか

		8-1	8-2	8-3	9-1	視点1つの評価
		活める「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の活用促進	「学力向上交流会」の開催	定「ちばっ子の学び変革」研究指（検証協力校）	タ「授業づくりコーディネーター」の認定	
教職員	教職員は、児童生徒の学ぶ意欲を引き出すために、教材を工夫したか	b				b
	教職員は、授業改善に向けて「実践モデルプログラム」を意識することができたか	a	a		b	a
	教職員は、授業改善に向けて「実践モデルプログラム」を活用したか	b		b	b	b

※a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である

エ 授業改善を意識した研究・研修・分析ができているか

	7-1	8-1	8-3	9-1	9-2	10-1	10-2	10-3	11-1	11-2	11-3	視点ごとの評価
	用促進 「全国学力・学習状況調査」のデータ及び分析ツールの活用	「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の活用促進	「ちばっ子の学び変革」研究指定（検証協力校）	「授業づくりコーディネーター」の認定	U10学びの未来づくり	優良・優秀学校図書館の認定	学校図書館活用に関する研修の実施（新任校長研修）	学校図書館活用に関する研修の実施（公立図書館連携研修）	研修履歴システム「Asttra（アストラ）」の運用	授業力を高めるための理論的・実践的な研修	「校内研究モデルプラン」、eラーニングによる効果的な校内研修等の推進	
教職員は、授業改善に資する学校図書館の環境整備を行ったか						b	c	a				b
教職員は、授業改善に向けて前向きに協議や研修を行ったか	a			b					b			b
教職員は、授業改善の具体的な方法を学ぶことができたか	a			b						b	b	b
教職員は、授業改善の手段として学校図書館を活用したか						b	b	a				b
教職員は、授業改善に向けて情報交換を十分に行えたか				b	c					a	b	b
教職員は、授業改善の効果を実感することができたか	a		b	b	c					b		b
教職員は、進んで授業改善を行おうと意識することができたか	a	a	b	b	c					a	b	b

※a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である

学力向上推進会議による第三者評価

*学識経験者、学校教育関係者、保護者代表等による評価

評価の 観 点	学力向上推進会議における意見
ウ	<p>『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を授業改善の拠所とする意識が県全体に根付いていると言える。各学校において、実践モデルプログラムを活用し、授業を工夫改善する取組を更に続けるとともに、実践を共有していくことが重要である。</p> <p>「学力向上交流会」は「実践モデルプログラム」に即した授業実践の共有・情報交換の場としても意義が大きい。「ちばっ子の学び変革」の検証協力校の実践発表が主だが、協力校以外の実践を発表できる場として活用してもよいのではないか。ブレイクアウトルームは、参加者が積極的に意見交換しており、授業改善の意識を高める上で大変有効である。今後は、オンライン開催の特性を生かし、より多くの職員が視聴できるよう、よりオープンな参加やオンデマンド配信など、開催方法の検討を望む。</p>
エ	<p>『全国学力・学習状況調査』のデータ及び分析ツールの活用」については、各学校の課題のある分野を分析し、手立てを講じており、活用が定着していると言える。各学校での学習指導の拠所となっていると評価できる。</p> <p>「U-10学びの未来づくり」事業は若手教員の授業力向上の有効な機会として大いに期待できるが、活用が進んでいない。また、「授業づくりコーディネーター」についても活用に課題がある。周知を十分に図り、人材の開拓と活用の推進を望む。</p> <p>研修履歴システム「Asttra（アストラ）」が定着し、活用が図られており、事業効果があった。来年度、システムが変更されることから、スムーズな移行が求められる。</p> <p>「授業力を高めるための理論的・実践的な研修」は、どの経験層の教員においてもニーズが高い。層別・テーマ別研修等、様々な研修について評価を行い、総合的に分析することで、研修の改善につなげることを期待する。</p>
<p>【Action 2 について】</p> <p>各事業の取組における「評価の観点」「評価の視点」「評価の理由」は適切であり、事業評価は妥当である。「全国学力・学習状況調査」のデータ活用については、各学校での積極的な活用状況が見られるため、委員での協議のもと、高い評価とした。</p> <p>どの事業においても情報提供、広報活動をしていくことが大切である。短時間で確認できる内容にする、オンライン開催やオンデマンド配信などを活用するなど、教職員がアプローチしやすい環境づくりが必要である。</p> <p>事業相互の関連や位置付け等が示されないと、各事業が「羅列」した状態になってしまう。例えば、学力向上施策の関連や相関が分かる図を作成することで、視覚的にも内容的にも事業が整頓され、事業間の相乗効果を図る上でも有効であると考えられる。</p>	

【総合評価】ちばっ子「学力向上」総合プランの全体評価

(学力向上推進会議による総合プランの全体評価)

- 【評価の観点】
- I 各アクション、各事業の評価は適切か
 - II 前年度の評価等を活かした事業内容改善の成果は上がっているか
 - III ちばっ子「学力向上」総合プランにより、児童生徒の学ぶ意欲は向上しているか
 - IV ちばっ子「学力向上」総合プランにより、教員は授業改善を図っているか

学力向上推進会議による第三者評価

*学識経験者、学校教育関係者、保護者代表等による評価

評価の観点	学力向上推進会議からの意見
I	学力向上推進会議の構成員から見ると、高く評価できる取り組みをしているのにも関わらず、実施者が過小に評価している事業が一部あるが、各アクション、各事業の評価は概ね適切であると判断できる。
II	「千葉県学習サポーター」や「小学校専科非常勤講師」等、児童生徒の学力向上が期待できる事業に関しては、前年度も構成員から「予算の拡充、人員配置、コマ数の増加」の意見が出ていたため、反映が期待される。その他の事業に関しては、概ね前年度の評価が活かされ、事業内容の改善の成果が上がっていると判断できる。
III	「魅力ある専門分野の人材活用事業」、「先進的教育活動による学ぶ意欲向上事業」、「SSH」の活用、「科学の甲子園」等により、児童生徒の学ぶ意欲は向上していると考えられる。
IV	「全国学力学習状況調査のデータの活用」において、教員の積極的な姿勢が見られる。また、「U-10学びの未来づくり」事業は若手教員の授業力向上が期待できる。「研修履歴システム (Asttra)」に関しては新システムへのスムーズな移行が必要であるが、全体として「ちばっ子『学力向上』総合プラン」により、教員は授業改善を図っていると考えられる。

【ちばっ子「学力向上」総合プランについて】

児童を対象にした事業、教員を対象にした事業ともに、より多くの児童生徒、教員に周知し、活用を促す必要があるが、児童生徒を対象にしたAction1と、教員を対象としたAction2が、効果的に組み合わせ、ちばっ子『学力向上』総合プランとして、成果を上げていると評価できる。